

日本語学校 学生寮着工

大崎 来春開校 最大100人入居

大崎市が2025年4月の開校を計画する「おおさき日本語学校」の学生寮の着工式が26日、同市古川中里5丁目の建設予定地であった。民間事業者が市有地を無償で3年間借り受け、8月～25年3月末の第1期工事で個室60室、27年3月末には40室を整備し、最大100人の留学生が入居する寮の運営と維持管理にも当たる。



事業者の早坂氏(左から2人目)らがくわ入れして工事の安全を祈った

軽量鉄骨造2階、延べ床面積計2587平方メートルの2棟を整備する。同市の建設不

動産業「古川土地」の早坂章太社長個人が土地を借り受け、自己資金と家賃収入で建設から運営まで賄う。協力事業者の積水ハウスが設計と建設、古川土地が外構工事を担い、寮運営はノウハウを持つ大手事業者との連携を検討している。建設費は計十数億円で、30年間の総事業費は20億円を超えると思われる。

式には関係者約60人が出席。早坂氏は「日本語学校は過疎化の中でピンチをチャンスに変える取り組み。誰かがやらなければならぬ」と使命感を持って提案した。地元への恩返しとして「しっかり運営する」と語った。

伊藤康志市長は「勇気を持って引き受けてもらった。学校と寮を拠点に多文化共生社会をつくりたい」と述べ、村井嘉彦知事は「日本語学校は私がお願いして始まった。必ず成功させなければならぬ。しっかりサポートするので安心してほしい」と強調した。

古川東保育所跡地と隣接地の計3062平方メートルに、

読売新聞【令和6年7月27日】

日本語学校開校向け
大崎で学生寮着工式
県内で働く外国人材向け
に大崎市が来年4月の開校
を目指している日本語学校

について、学生寮の着工式が26日に行われ、関係者らが工事の安全を祈願した。公設日本語学校は全国2例目となる見込みで、労働力不足を解消するために外国人を呼び込む施策で重要な役割を担う。

学生寮は、旧西古川小（大崎市古川保柳）の校舎を活用する「市立おおさき日本語学校」に電車と徒歩で約30分の市有地（同市古川中里）に整備される。2階建て（延べ床面積2587平方メートル）の全個室で100人が入居できる。

学生寮の建設と運営を担う「古川土地」の早坂竜太社長が個人で建設費を負担し、家賃収入などを得て運営を行う。大崎市としては、外国人材を受け入れる拠点を作ることと交流人口の拡大につなげる狙いがある。

式典には約60人が参加。早坂社長は「大崎に生まれた者としての恩返しだ」と話し、村井知事は「大崎への学生の定住にもつながる」と期待を寄せた。



くわ入れをする村井知事(左)ら(26日、大崎市で)

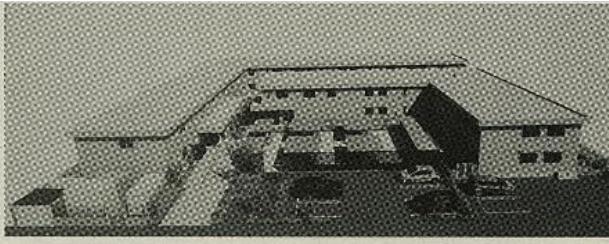
古川土地区
積水ハウス

建築は積水ハウス、外構は古川土地

25年3月に
1期完成を目指す
大崎市で日本語学校学生寮着工

古川土地（早坂竜太代表取締役）と積水ハウス東北シャームゾン支店（櫻井直樹支店長）は26日、大崎市立おおさき日本語学校学生寮の整備事業の安全祈願祭・着工式を大崎市古川中里地区内の旧古川東保育所跡地で開催した。

事業者は古川土地の早坂代表、設計・施工は積水ハウス、外構は古川土地が担当する。施設整備後は3者が連携して維持管理・運営、メンテナンスにあたる。



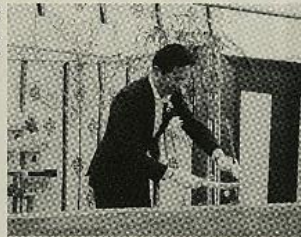
完成パース

民間の資金やノウハウを活用して留学生が入居できる学生寮の整備を計画。事業用地は大崎市古川中里5の71、72地区内の市有地。面積は3062平方メートル。JR古川駅から約700メートル南西側で、徒歩約10分圏内にところ。土地は大崎市が事業者に無償で30年間貸し付ける。

施設は軽量S造2階建てで、1期整備棟は延床面積1624・16平方メートル、2期整備棟は延床面積963平方メートルで計画されている。学校開設時の定員は60人規模を想定しているが、最終的に100人規模までの拡大を目指しており、寮も最終的に100人規模で整備する。

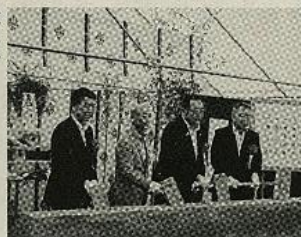
1期整備棟は居室60室のほか、管理人室や食堂・厨房、共用諸室などを整備。2期整備棟は居室40室、共用諸室を整備する。設備はWiFi設備、防犯カメラ、7台の駐車場と1000台の駐輪場なども整備する計画だ。

事業は2期に分けて実施し、第1期は2025年3月末の工事完了を目指す。2期工事は26年6月下旬ごろに着工し、27年3月末の完成を予定している。式典には関係者約50人が出席。神事では積水ハウスの櫻井支店長が鎌入れ、古



鎌入れ

川土地の早坂代表、伊藤康志大崎市長、村井嘉浩宮城県知事、櫻井充参議院議員が鎌入れ、古川土地の南條聖一取締役建設事業部長、積水ハウスの佐藤忠副支店長が鎌入れを行い、工事の安全を祈った。



鎌入れ

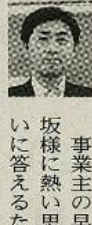
式典終了後、あいさつに立った早坂代表は「私も大崎で生まれ、育てていただいた。その恩返しの一環として学生が安心して学ぶための生活拠点を整備する。私のやるべきこととして強い使命感を持って事業を提案した」と力を込めた。



鎌入れ

続けて伊藤市長は建設地が保育所跡地であることに触れ「公共施設が統廃合した時、跡地活用が課題となき、古川中里の地に活力を与えていただき感謝する」とあいさつした。村井知事は「日本語学校は県内のみならず、国内のさまざまな地域が注目しているので事業成功に向けて県として支援を進めていく」と大崎地域の活性化に期待を寄せた。

積水ハウス
増井利幸現場代理人の話

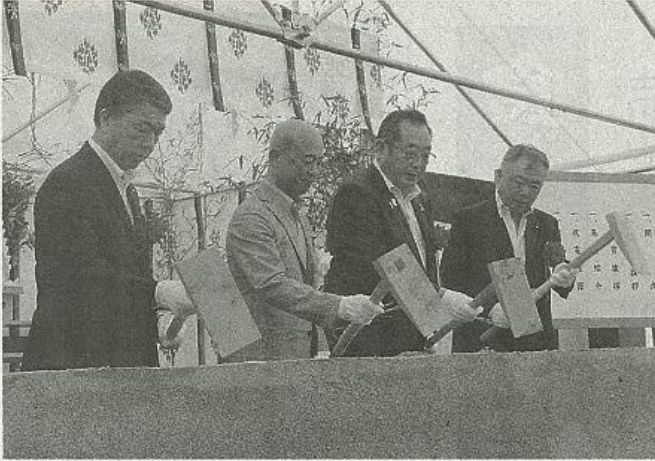


事業主の早坂様に熱い思いに答えるため、安全・安心な建物をつくり、生活される学生に快適に過ごしてもらいたい。工事中は住宅地で小学校への通学路ともなっているため、第三者災害には特に注意を払いたい。

学生寮の工事着工

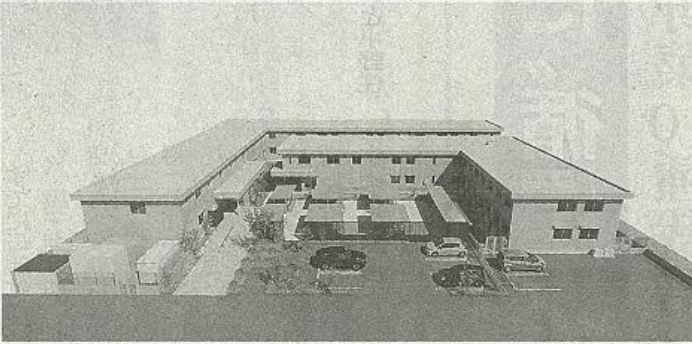
大崎市立 日本語学校 関係者出席し安全祈願

来年4月開校予定の大崎市立「おおさき日本語学校」の学生寮工事安全祈願祭、着工式が26日、同市古川中里の現地で行われた。事業主の早坂竜太古川土地社長や工事関係者、伊藤康志市長、村井嘉浩知事らが出席し、神事を行って事業の成功を祈った。工事は8月下旬ごろ本体建設に入り、来年3月に完成する。



くわ入れを行い工事の安全を祈る（左から）村井知事、早坂社長、伊藤市長、桜井充参院議員

来年3月の完成目指す



「おおさき日本語学校」学生寮完成予想図

公設による日本語学校は国内2例目となる見込み。校舎は旧西古川小学校舎を改修して活用。学生は学生寮で生活し、学校までJR陸羽東線を使って通学する。定員は開校時が60人

で、3年目に90人、5年目に100人を予定。学生寮の工事は2期間に分けて行い、開校までの第1期工事で居室60室、第2期（2026年度）で同40室を整備する。建物は軽量鉄骨造り

2階。全室個室で、食堂、厨房、共用スペース、管理入室などを設ける。建設場所は、JR古川駅から歩いて10分ほどの旧古川東保育所跡地。敷地面積は3062平方メートル。事業主は早坂社長個人で、30年間、市から土地の無償貸与を受け、家賃収入を得て管理、運営に当たる。法人による事業運営も検討しているという。設計施工は積水ハウス、外構工事は古川土地がそれぞれ行う。

安全祈願祭、着工式には60人ほどが出席。神事を行って工事の無事を祈り、多文化共生の推進、外国人定住による人口増や労働力確保などに期待を寄せた。伊藤市長は「多文化共生へ、地域住民も協力をお願いしたい」とあいさつ。村井知事は「公設第1号の」北海道東川町では外国人が残り、雇用や消費につながっている。大崎の例は全国でも注視されており、県も支えたい」と述べた。早坂社長は「過疎化が想像以上に進んでおり、微力ながら地域に恩返しをしたいと参画した。しっかりと整備し、運営することを誓う」と決意を語っていた。

学生寮の工事着工

大崎市立 関係者出席し安全祈願

来年4月開校予定の大崎市立「おおさき日本語学校」の学生寮工事安全祈願祭、着工式が26日、同市古川中里の現地で行われた。事業主の早坂竜太古川土地社長や工事関係者、伊藤康志市長、村井嘉浩知事らが出席し、神事を行って事業の成功を祈った。工事は8月下旬ごろ本体建設に入り、来年3月に完成する。



くわ入れを行い工事の安全を祈る（左から）村井知事、早坂社長、伊藤市長、桜井充参院議員

来年3月の完成目指す



「おおさき日本語学校」学生寮完成予想図

公設による日本語学校は国内2例目となる見込み。校舎は旧西古川小学校舎を改修して活用。学生は学生寮で生活し、学校までJR陸羽東線を使って通学する。定員は開校時が60人

で、3年目に90人、5年目に100人を予定。学生寮の工事は2期間に分けて行い、開校までの第1期工事で居室60室、第2期（2026年度）で同40室を整備する。建物は軽鋼鉄骨造り2階。全室個室で、食堂、厨房、共用スペース、管理入室などを設ける。建設場所は、JR古川駅から歩いて10分ほどの旧古川東保育所跡地。敷地面積は3062平方メートル。事業主は早坂社長個人

人で、30年間、市から土地の無償貸与を受け、家賃収入を得て管理、運営に当たる。法人による事業運営も検討しているという。設計、施工は積水ハウス、外構工事は古川土地がそれぞれ行う。安全祈願祭、着工式には60人ほどが出席。神事を行って工事の無事を祈り、多文化共生の推進、外国人定住による人口増や労働力確保などに期待を寄せた。

伊藤市長は「多文化共生へ、地域住民も協力をお願いしたい」とあいさつ。村井知事は「（公設第1号の）北海道東川町では外国人が残り、雇用や消費につながつている。大崎の例は全国でも注視されており、県も支えていきたい」と述べた。早坂社長は「過疎化が想像以上に進んでおり、微力ながら地域に恩返しをしたいと参画した。しっかりと整備し、運営することを誓う」と決意を語っていた。